

令和6年度留萌地域づくり連携会議 議事要旨

日時：令和6年8月8日（木）14：00～16：00

会場：留萌開発建設部 第1会議室

【出席者（構成員等）】

留萌市長、増毛町長、小平町長、苫前町長、羽幌町長、初山別村長、遠別町長、天塩町長、留萌商工会議所会頭、留萌観光連盟会長、留萌管内漁業協同組合長会会長（代理：北海道漁業協同組合連合会留萌支店長）、るもい農業協同組合代表理事組合長、留萌管内商工会連合会会長、留萌金融協会会長、留萌振興局長、留萌開発建設部長、寒地土木研究所技術開発調整監

【情報連絡】

- （１）第9期北海道総合開発計画の概要（留萌開発建設部）
- （２）北海道総合計画の概要（留萌振興局）

【議事】

- （１）令和6年度留萌地域づくり連携会議の運営について（留萌開発建設部）
- （２）留萌地域づくり連携会議等設置規約改正について（留萌開発建設部）
- （３）地域重点プロジェクトの進捗状況について（留萌開発建設部）
- （４）道北連携地域政策展開方針の進捗状況について（留萌振興局）
- （５）次期道北連携地域政策展開方針（留萌振興局案）について（留萌振興局）
- （６）次期道北連携地域づくり推進ビジョン（素案）について（留萌開発建設部）
→（１）から（６）まで異論なし

（７）意見交換

テーマ：留萌地域の価値を最大化し、「我が国の豊かな暮らしを支える」取組について

○留萌市

- ・インフラの整備は重要課題。温暖化の状況を考えていくと、食料安全保障についても重要な案件として留萌地域や道北で考えていくべき。
- ・観光立国への取り組みは、人材確保を含めてアドベンチャートラベルを推進し、さらなる拡充をしていく必要がある。
- ・ゼロカーボン北海道については、今後2030年以降2050年に向けてこの地域にまず送電網が欠かせないため、民間事業者だけでなく国や道も含めて必要なインフラだということを訴えていかなければならない。

○増毛町

- ・留萌市の道の駅にモンベルが出店することについてはチャンスと捉えており、留萌管内のアウトドア活動機運が高まったと思う。
- ・今年、増毛町内に増毛アウトドアネットワークという組織が生まれて、増毛町の新たな観光コンテンツとして活用するために、情報収集、調査研究、実証実験に取り組む。
- ・地方だからこそ自然・農林水産資源が多くあり、アドベンチャートラベルの3要素が揃っていると考える。アドベンチャートラベルの推進については、ガイドの養成、1週間以上宿泊できる質のよい宿泊施設、誰が主体的に進めるかという受入体制等の課題が多くあるが、このアウトドアネットワークが主体となってアクティビティや文化体験のパッケージを提供することを目指している。

○小平町

- ・自然エネルギーや送電網の整備については、水産資源や海の生態系に影響するのではないかということも聞かされているが、漁業者等の意見も聞きながらやるべき方向を真剣に捉えて、留萌管内が一つになって意識を作ることが大事。
- ・先般オロロンライン国道232号、239号が連続降雨により通行止めになったことにより様々な障害が起きている。より強靱で安全な命の道路の構築が急務。
- ・それぞれの地域を跨ぐ振興策などの課題を各市町村が分担しながらも評価処理していくような仕組づくりをするのが大事だと考える。

○苫前町

- ・留萌管内は食と観光と自然エネルギーの三本柱だと思っている。特に今回の第9期北海道総合開発計画の中では、カーボンニュートラル、再生可能エネルギーを取り上げており、風力発電を進めてきた当町としては非常に心強く、高く評価している。
- ・風力発電事業について、自然エネルギーを伸ばし、脱炭素計画を2050年までに達成するためには、民間事業者にとって我々自治体は何が出来るのかを考えていかなければならない。
- ・民間事業者が具体的な事業計画を立て、我々が風況調査に協力をする。住民説明会をする時に住民に対して説明や協力をするなど、民間事業者が入りやすい環境を作らなければならないと思う。

○羽幌町

- ・地域の将来の縮図的なこととして、天売・焼尻島の現状についてお話させていただく。高齢化が非常に進んでいて、焼尻島についてはインフラを守っていくことや、生活を守っていくということが非常に困難な状況が生まれている。
- ・特定有人国境離島法があるが、残念ながら北海道の中で唯一天売・焼尻島だけが指定を外れており、同じ北海道の離島の中では非常に暮らしにくいということも言われている。先日陳情に行ってきたが、人口減も含めて何とか有人国境離島を守っていただきたい。

- ・天売島に関しては、若い世代で頑張っている方がいて、社交金を使って東京資本の Cottage 型の宿泊施設の誘致に成功した。

○初山別村

- ・先日来客があり、「今留萌の道をずっと上がってきたが、なんか安らぐね。」という話をされた。また、キャンプで来た方が夕日を見て「綺麗だね」と言っており、留萌の地域にはまだまだ人に愛される、好まれる環境があると感じた。
- ・北海道に代わる地域など日本の中にはなく、その価値を生み出しているものは地方部である。北海道は広域分散型社会で非常に距離が遠い、あるいは集落が点在している中で、生産空間を維持していくことは極めて大変であるが、国土計画の中で位置づけられている北海道の役割を考え、しっかり取り組んでいかなければならない。
- ・留萌地域の場合、特に道路、港湾、福祉のあり方や医療、合わせて教育というものがある。整って初めてその地域が生産空間としての未来の創造に繋がっていくことになる。
- ・従来の効率性や採算性、費用対効果という考え方だけでは、生産空間として成り立っていない現状。その点ではこういった視点プラス新しい生産空間を維持していくために必要な予算を国としてしっかり確保していただき、それぞれの課題を実践していくことが必要。

○遠別町

- ・留萌地域の全体を考えると、人が南から北ばかりではなく、北から南も動く。西から東にも動く。そういう中で道路網の整備は絶対に必要。
- ・今日の資料（参考 1 P3）を見て驚いた。農業就業者一人当たりの農業産出額という北海道の姿が出てきて、オホーツク側がものすごく赤く生産力が高い。一方日本海側は、ピンクにもなっていないような状況。
- ・生産力が低く、人口が少ない地域に、過大な投資をできないという考え方もある。ただ逆な考え方をすると、資本力が無い、人が少ない、生産力もない。だから資本を投下しなければならないという考え方もあるのではないか。

○天塩町

- ・衣食住を支えるベースを立ち上げていかなければ、ここのテーマに行き着く我が国の豊かな暮らしには結びついていかない。
- ・食について、天塩は酪農経営の部分がある。大規模経営をしてきたことで、今回のコロナやウクライナ侵攻等により粗飼料が輸入できなくなってきた。地域の実態を考えると、粗飼料を自分たちで生産していくという基盤作りが大事。
- ・生活圈や距離、位置づけ、また医療圏を考えると、南ではなく北（宗谷、稚内、名寄）が中心になる。道北連携地域として連携することで留萌地域の価値が高まり、足並みを揃えていくことが大事。

○留萌商工会議所

- ・全道・全国的にせっかくコロナから復帰をして、これからだという時に人材不足、そして価格転嫁ができないという状況で仕方なく廃業していく業者や飲食店が本当に多くなってきているという印象を受けている。
- ・先ほど天塩町長も言っていた、新しい価値とはよそから見た方が留萌にどんな価値を見出すのかということ。外からの意見をいただいて、この地域の価値を高めていくことが何よりも重要である。
- ・昨今、留萌管内が注目を浴びてきていると実感している。留萌管内にはまだまだ多くの土地があり、本当に涼しい気候で、ポテンシャルの高い地域ということも聞いている。送電網の件もそうであるが、民間の事業者がどう考えるか、どうそれに協力していくかが重要である。

○留萌観光連盟

- ・観光・アドベンチャートラベルについて、留萌市、留萌管内にどうすれば人を呼べるのかを考えていきたい。
- ・増毛町に来る観光客のおよそ 8 割が札幌の方から来ているという話を以前に聞いていた。深川留萌道ができてからは留萌から増毛に行き、また留萌に帰るという話をよく聞く。観光としても道路がなければその地域には行けないため、道路というのは本当に大切である。
- ・今回観光連盟でマップを作成した。今は皆さんスマホかも知れないが、紙媒体で使っている観光客もかなりいて、飛ぶように無くなる。頑張って皆さんの町村を PR したいと思っている。

○留萌管内漁業協同組合長会事務局

- ・水産業、漁業の立場で申し上げると、産業全体に言えることであるが、プロジェクトを進めていくにあたり担い手不足や高齢化問題が顕著。特定技能実習生に頼らざるをえなく、将来的にもますます重要度は増していくものと思う。
- ・先日外国人労働者の方々の慰労を兼ねたイベントに参加した。今回は外国人の方だけで 100 人以上の盛大なイベントであった。このような働き手の方々に対するケアも、大変重要である。
- ・温暖化による異常ともいえる海水温の上昇、ホタテ稚貝の大量死、貝の壊死については、道や関係機関において原因説明も含めて早急に対応策を講じる必要がある。

○るもい農業協同組合

- ・留萌地区における農業を取り巻く環境については、今大変厳しい時期を迎えている。生産現場では、高齢化に伴う農業者の離農や担い手不足による生産基盤の脆弱化、また肥料、飼料、燃料代等の生産資材価格の高騰等により先の見えない不安がある。
- ・食料安全保障強化の関係については、持続可能な農業の確立に向けた予算がなければ思うように守れないため、来年の食料安全保障改正案の基本計画の中にしっかりこれらの予算を明記していただき、農業を守ってもらいたい。

- ・スマート農業の関係については、わが留萌地区は中山間地域であるため、その機能が果たせるのか疑問である。基盤整備をやりとしたら事業費が相当かかるため、今の農業情勢では基盤整備も中々踏み切れないものがある。

○留萌管内商工会連合会

- ・留萌管内は、南北 170 キロぐらい、東西 50～60 キロと非常に長い。命を守る道路ということを小平町長が言っていたが、これは皆の問題であり、皆でなんとかしなければならない。
- ・送電線の問題は我々の経済活動にも大きく関わってくるため、優先順位をきちんと決めてやっていく形をとっていただきたい。

○留萌金融協会

- ・留萌地域の民間事業者から聞く課題について、人手不足が大変大きいと感じている。今年の 4 月から留萌市でも奨学金の返還支援制度が始まったため、今後も支援の手法は様々出てくると思っている。
- ・事業承継について、コンサルト等の専門家に依頼して取り組んでいくケースが多い。この費用がネックとなり承継が滞ることがないように、助成制度の設定や今ある制度を使いやすくするための設計変更等をしていただけると嬉しい。

○留萌振興局

- ・道路、災害対応、各産業、農林水産業、教育、医療など、本日皆様からいただいたご意見に関することは、道北連携地域政策展開方針(資料 5)にも記載しているとおり、この地域の住民の方々が安心して暮らしていくための基になることだと思っているので、我々としてもしっかり取り組んで参りたい。
- ・様々なご意見の中で「連携」という話をいただいており、我々は広域行政としてしっかりと関係者を繋ぐ役割を果たしたい。
- ・農畜産物の価格転嫁が困難であることや、人材不足、また一次産業の再生産が困難な状況など、本日いただいたご意見については、今後の取組や計画立案に活かして参りたい。

○留萌開発建設部

- ・食・観光・エネルギーについていろんな話題が出たが、留萌地域の魅力をいかに伝えていくか、価値を高めるためどうしていくかということで、「留萌地域が一つになって」知恵を出し合い、地域を盛り上げていきたい。
- ・貴重なご意見に感謝する。いただいた意見については、今後の行政運営や施策の参考とさせていただきます。

【その他】

- (1) 北海道開発計画調査について（留萌開発建設部）

(2) 地方公共団体への技術支援について（寒地土木研究所）